

学校教育目標	未来を拓き 人間力豊かに 学び続ける高見っ子の育成
--------	---------------------------

a ミッション	〇小中連携教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進による 主体性・表現力の育成	a ビジョン	人間の根っこを育てる学校づくり
---------	--	--------	-----------------

尾道市立高見小学校

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	g 達成値		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					7月	1月				イ	ロ	ハ		
(主体性・表現力・関わり合い)の育成	関わり合いを通じた主体的な学びの確立 児童が自信を持って科学的に表現する力の育成。	科学的に表現できる児童を育成するために、交流活動を充実させた教科研究を行う。	算数科各単元末の振り返りにおいて表現したもののB評価以上児童の割合	75	79	105	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が科学的な見方を働かせて仮説や考察に取り組む授業設定、授業改善や評価、個別の支援などについて研修し、実践に生かすことができた。 学習を通して「新しく知ったこと」「生活で生かせること」「他教科で活用したら」の3つの視点を持たせて振り返りを書かせることで、児童が実感を伴いながら学習し、表現することができた。 他教科、特別活動等においても同様に「課題設定→追究→振り返り」の中でより深い学びを得られるよう取り組む必要がある。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 花丸。 科学的に表現できる児童を育成するための方策がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果の見られた取組を普実に継続し、児童が自信をもって学ぶことができるようにする。 評価対象（研究）教科での取組を他教科等に広げ、児童がより深い学びを得られるよう取り組む。 	
		基礎的・基本的な学力を高めるために、補充学習を行う。	国語科・算数科単元末テスト（知識・技能）における平均通過率	85	国語 86.0 算数 90.1	101 106	A	<ul style="list-style-type: none"> 週3回、5校時の前に設定している「やりきりタイム」、保護者とも連携した上で行う放課後補充学習などの補充学習を、個別の実態に合わせて確実に学力を定着させることを意識して行うことができた。 授業研究を受けて、若手教員に「個に応じた指導の必要性」の意識が高まった。 学力の個人差は依然として大きく、授業においてより個に応じた指導を充実させることが必要である。 学力調査の結果を生かし、取組の一層の改善を図る必要がある。 	3			<ul style="list-style-type: none"> このレベルまでは到達してほしいというところまでいくのが大変だし、そこまでがんばってわかった！できた！と言ってくれるときに教師のよろこびですよね。がんばってください。 個人差が大きいという課題は残っているようだが、総体的には指導の成果が見える。 「やりきりタイム」で個別の目標に向かって学習する取り組みは良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 「個に応じた指導」について引き続き研修・研究の場を設け、教師の個々の状況を的確に把握して効果的に対応できるようにする。 学力調査の結果を全員で分析、共有し、重点を明らかにしたうえで、統一した連続的な取組を進める。 	
	人との関わり合いを通じて、相手意識をもった人間関係の形成	「しまっこしぐさ」を基盤とし、発達段階に応じたあいさつを通して自己を表現できるようにする。	毎月のあいさつ週間カードの「振り返り」に、「相手意識をもったあいさつ」に関する記述ができた児童の割合	80	72	90	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分で目標を決め、振り返りをする中で、次第に自分のことを具体的に振り返り、書くことができるようになってきた。 あいさつ週間のあいさつは児童も教職員も意識して行っているが、期間外の学校生活や地域での生活で「相手意識を持ったあいさつ」が実行できているとは言えない。 個々の目標意識が高まったが、児童同士で声を掛け合うなど互いに高まろうとする姿を広げていく必要がある。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 前に「あいさつ+ひとこと運動」をしていて、何を言ったか発表し合う場面が楽しかったです。毎日やることにはしてほしくないですが、… 学校におまかせするだけでなく、むしろ家庭や地域が育てなければならぬと考える。 もっと達成の割合が増えれば良いですが、素晴らしい取り組みだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な声かけや、地域・保護者との連携をとおして、あいさつ週間だけでなく、日常の学校生活や地域での生活へも「相手意識を持ったあいさつ」を広げていく。 児童会を中心とした活動に取り組むことなどをとおして、自分たちの生活を自分たちでよりよくしていくとする意識を高める。 	
自己を振り返り、よりよく生きようとする態度の育成	成果を実感できるよう、生活上のめあてを明確にし、それを意識した振り返りをさせる。	生活リズムチェック表において、早寝・早起きを達成できた児童の割合	80	90	112	A	<ul style="list-style-type: none"> 早起きの達成度は93.6%、早寝の達成度は86%と目標値を上回った。目標を自己設定させたことで意識が高まったこと、取組が定着し、保護者の理解が得られていることが要因と考えられる。 昨年度に続き、金曜日や休日の達成度が低くなっていた。これは、「メディアの時間」と密接な関係にあり、テレビやスマートフォンなどのメディアの使用時間が増えるにつれ、就寝時刻も遅くなっていった。個別の指導のほか、保護者への声かけも必要である。家庭でのメディアルールを作るなど、上手にメディアと付き合っていく必要がある。 	3			<ul style="list-style-type: none"> （メディアの使用による就寝時間の遅れは）私達の世代も保護者にとっても深刻な問題です。ついついスマホを片手に読んでいます。自己管理の難しさを感じます。 「メディアの時間」が長くなるにつれ、「メディアのコンテンツ」も悪いものになっていくと思われるので、両方の指導が家庭内でも行われなければならないと感じる。 学年が上がっていくとともに、テレビからスマートフォンに使用メディアが変わっていき、年齢に合わせたメディアルールが必要になってくると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 就寝時刻が遅くなってしまふ大きな要因はメディアの使用時間の増加である。そのため、保護者や保護指導でメディアとの付き合い方、睡眠時間の大切さに触れるとともに、就寝時刻が非常に遅い児童については、個別の指導や保護者への協力・声かけも行う。 		
自らの生活を振り返り、よりよく生活しようとする態度の育成	異学年等と外遊びをする機会を作り、友達と体を動かす楽しさを感じさせることで、運動好きな児童を増やす。	体を動かすことに肯定的な児童の割合（児童アンケート）	80	86	107	A	<ul style="list-style-type: none"> 2・5・6年生は80%、1・4年生は90%を超える児童が「運動が好き・やや好き」と答えていた。 3年生は57%と約半数となっていた。体を動かすことが「やや嫌い・嫌い」と答えた理由としては、「運動が走ることが得意ではないから」「汗をかいたら」「けがをしたくないから」というものが多かった。 児童の運動に対するイメージを「得意不得意」からの捉えではなく、「誰でも簡単に行うことができるもの」に変えていく必要がある。また、けがのリスクが低い運動の紹介も必要となる。 	3			<ul style="list-style-type: none"> （運動に対する児童のイメージの転換は）とても大事なことです。楽しみながらできていることですね。また私達にも教えてください。 外遊び以外にも登下校でしっかりと歩き、異学年と交流できているのが良いと思う。いつも安全指導をしていたらいいと思うが大変ありがたい。 簡単に楽しい運動の紹介は良いと思います。運動好きが増えるように、校庭・中庭の環境も良くしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童は「体を動かす運動」＝ランニングやスポーツなどの激しい運動と捉えていると思われる。児童が運動に対するイメージを「得意不得意関係なく、誰でも簡単に行うことができる」と捉えることができるよう、「友達と一緒に楽しく体を動かす」ことを、体育の時間の強化運動や学級遊び等に取り入れていく。また、楽しくけがのリスクが低い運動を積極的に紹介していく必要があります。 		

【自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成)
 C: 60≦(もう少し) < 80
 B: 80≦(ほぼ達成) < 100
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。